

人物風土記

題字は
山中市春 横濱市長

職。国内の大手企業を担
當した。転機は30歳の
時。妻の父が創業した不
動産会社を引退する方針
をほのめかした。「それ
ならば私にやらせて」と
手を挙げた。業界も職種
も未経験の素人。義父か
らも「本当にいいのか？」
と諭されたという。「経

○：サンハートで開催
された「失敗しない老人
ホームの選び方」。不動
産と介護に携わる専門家
として「高齢者がより良
い暮らしをするためのサ
ポートになる内容と思っ
てもらえれば」とセミ
ナーを振り返った。

は兄同様喜んで行ってい
ると思っていたのでは一
勤賞で卒業した。
○：大学時代は研究者
受験。通学に片道1時間
を目標したが、外資系コ
ンサルティング会社に就
半かかると、両親のサン
ポーターになる内容と思っ
てもらえれば」とセミ
ナーを振り返った。

○：つくの幼稚園、笹
野台小出身の「あさひつ
こ」。3人兄弟の次男。
小学生の頃は習字に絵
画、体操に水泳、リトル
リーグと習い事の毎日
だった。「2つ上の兄は
喜んで行っていたが、嫌
で仕方がなかった」と本
音をボロリ。「当時は嫌
と言えなかったので、親

○：高校1年生と小学
6年生になる息子2人と
の時間が癒しのひと時。
卓球をしたり、スパー
銭湯に出かけたり、と親
子の時間を楽しむ。中学
受験を控えた次男とは毎
朝5時起きで1時間マン
ツーマンで勉強を見る。
「教えるのが好きだから
か『やってあげたい』と
思っちゃう」と照れ笑
い。もし今の仕事でなけ
ればの問いに「幼稚園や
保育園で子どもの面倒を
見てみたい」と思いを巡
らせた。

「より良い暮らし」の伝道師



●一般消費者向けのセミナー「失敗しない
老人ホームの選び方」の講師を務めた

さのやま
真山 英二さん

二俣川在住 50歳

らせた。